

[成果情報名]炭酸カルシウム水和剤散布によるウンシュウミカン果実に発生するかすり状被害の防除

[要約] ウンシュウミカン果実の果頂部や側面に発生するそばかす様のかすり状被害は、6月上旬～7月中旬における炭酸カルシウム水和剤の複数回散布により軽減できる。

[キーワード] ウンシュウミカン、そばかす病類似症、炭酸カルシウム水和剤

[担当] 三重農研・紀南果樹研究室

[分類] 研究

[背景・ねらい]

東紀州地域のウンシュウミカン果実で果頂部や側面にカンキツそばかす病やチャノキイロアザミウマの加害によるかすり状被害に似た症状（写真1、かすり状被害）が数年前から問題視されている。この被害はチャノキイロアザミウマの発生数と関係があり（R1 成果情報）、6月下旬～7月頃から症状として現れる。被害多発地域では殺菌剤・殺虫剤による防除を頻繁に行っても著しい被害が見られている。そこで、炭酸カルシウム水和剤（商品名：ホワイトコート）の散布による本被害の防除効果について調査した。

[成果の内容・特徴]

1. 本被害多発園地では、年によっては甚大な被害を受けることがある（図1）。
2. 主な被害時期である6月上旬から7月上中旬にかけて、炭酸カルシウム水和剤を散布することで本症状の発生を軽減できる（写真2、表1、2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 東紀州地域のかすり状被害発生ウンシュウミカン園での被害対策に活用できる。
2. チャノキイロアザミウマの発生が多いとかすり状被害の発生も多くなるため、白色マルチシートの敷設など総合的にチャノキイロアザミウマを防除することが望ましい。
3. ホワイトコートの登録は、「かんきつ」では25～50倍でのチャノキイロアザミウマと、200倍での銅剤の薬害軽減のみである。散布回数および収穫前日数に制限はないが、散布後は白色の薬斑が強く残るため、収穫後に果実の洗浄処理を行うか、収穫2か月ほど前までに散布を終えることが望ましい。

[具体的データ]

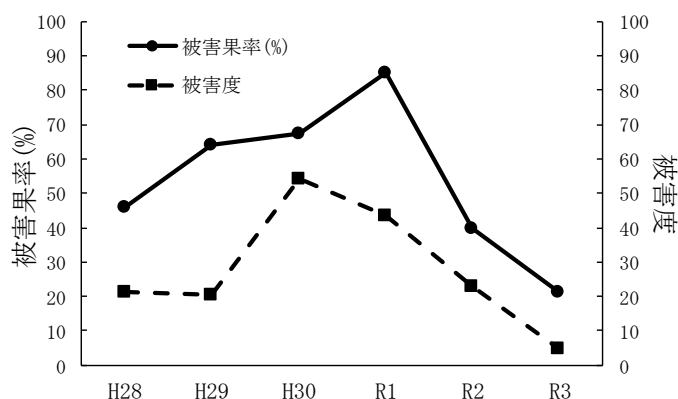


図1 無防除区におけるかすり状被害発生率の推移
御浜町現地圃場の「日南1号」のかすり状被害の発生果率および発生度の推移。



写真1 かすり状被害



写真2 ホワイトコート散布果実

表1 令和2年度の防除対策とかすり状被害の発生程度

処理区	調査果数	かすり状被害				被害果率 (%)	被害度	防除価
		被害程度別果実数						
		無	少	中	多			
炭カル剤+慣行防除	50	48.0	1.7	0.3	0.0	4.0	0.9	96.4
炭カル剤のみ	50	44.3	4.7	0.7	0.3	11.3	2.9	88.3
慣行防除	50	41.0	6.0	2.3	0.7	18.0	5.7	77.0
無処理	50	27.3	7.0	9.0	6.7	45.3	24.7	-

御浜町現地圃場の「日南1号」で、炭カル剤散布区では6/2～7/2にかけて炭酸カルシウム水和剤を計4回散布し、その内3および4回目の散布時は樹冠上部のみ散布した。慣行防除区では6/15と7/15に殺虫剤を散布した。1区3樹反復なしで、9/15に調査した。

表2 令和3年度の防除対策とかすり状被害の発生程度

処理区	調査果数	かすり状被害				被害果率 (%)	被害度	防除価
		被害程度別果実数						
		無	少	中	多			
炭カル剤+慣行防除	50	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
炭カル剤のみ	50	48.0	2.0	0.0	0.0	4.0	0.6	88.5
慣行防除	50	49.7	0.3	0.0	0.0	0.7	0.1	98.1
無処理	50	39.3	8.3	1.7	0.7	21.3	4.9	-

御浜町現地圃場の「日南1号」で、炭カル剤散布区では5/28～7/14にかけて炭酸カルシウム水和剤を計3回散布し、その内2および3回目の散布時は樹冠上部のみ散布した。慣行防除区では6/31に殺虫剤を散布した。1区3樹反復なしで、9/16に調査した。

(紀南果樹 小林孝徳)

[その他]

研究課題名：みえブランドカンキツ品種等の産地強化支援技術の開発
 予算区分：県単
 研究期間：2019～2021年度
 研究担当者名：小林孝徳、須崎徳高、菅原康太郎
 発表論文等：なし